



財布の紐をどうコントロールするか、カチャちゃんを如何に説得するか、オリエンテーリングとは別のスキルが要求される2007年の初夏199名の障害競技者が参加した全日本トレイルO大会

第3回全日本トレイルオリエンテーリング選手権大会 (長崎県大村市)

今年は6月のフットOの全日本大会が北海道で開催、トレイルOの全日本が九州・・・と、オリエンティアは南に北にと大移動を余儀なくされ、財布の重みを気にする年とはなった。

まずは南の大会。5月19・20日の「長崎ちゃんぽん大会」は、さすが南国九州は長崎県大村市、初夏の快晴のもと、スプリントにトレイルOに、楽しく、かつ 喜びしい二日間であった。

Pクラス選手がコース・セッター

一日目のスプリント(公認C)と、「トレイルOの集い」は、大村市北部の丘陵地帯にある「野岳湖」公園一帯を使って開催され、スプリントM21Aでは松澤選手が、2位の奥村選手に約3分の差をつけた。(セットは杉本光正、田中徹)

50名が参加した「トレイルOの集い」Aクラスでは、日下、山口(尚)、阪本、それに香港から参加のホ・チュンホ選手が同点一位を分け合ったが、満点者は残念ながらゼロ。

特筆すべきは、WTOC経験者である柏木、蓮本のPクラス2選手が車椅子使用者の立場からトレイルOのコースを組んだことである。その熱意と努力に敬意を表したい。

44名の挑戦

さていよいよ日本チャンピオンの座を目指し、満を持して臨んだ総勢44名の面々・・・

これまでの約1年半の間に各指定大会で上位を競い合うなど、Eクラス(選手権クラス)出場資格(いわゆるE権)を得たものは43名、そのうち39名がエントリーし、そこに香港1名、韓国4名の外国勢が加わった総勢44名が日本

チャンピオンの座にチャレンジした。

イチイガシ原生林をめぐる

第2日。日本トレイルオリエンテーリング選手権大会は、「大村イチイガシ原生林」と地図名にあるように、前日とは打って変わって自然の山中が舞台となっており、コントロールへの期待がつのる。しかも2.6KmのコースはわずかなUPを除きほとんど全てがゆるやかな下り坂の舗装道路で、車椅子競技者にとっては極めて条件が良いところであった。恵まれた場所を選んだものである。

以下は、Eクラスについてのレポート

スタートで高まるプレッシャー

トップ・スタートは08:30の児玉選手から10:16ラストの小山まで、選手は2分間隔でコースの中に消えてゆく。スタートを待つものは、遅ければ遅いだけ次第に緊張感とプレッシャーが増してゆく。



トップ・スタートの第一歩 08:30

前途多難を思わせるコース

今回は1分前に地図が配られたのでコース概略を事前につかむことが出来た。

前半部分に7コントロール、後半に同じく7コントロールと大きく二つのエリアに分かれている。また、全14コントロールのうち11コントロールまでが舗装道路沿いにある。

コントロール特長物は、沢、尾根、小川、切り開き、岩がけ、土がけ、植生界、凹地、湧水点・・・と多彩にわたる。

相変わらず位置説明のG欄の記述が少ないのは近頃の傾向か。G欄の表記がないだけ、コントロール円の中心点のピン・ポイント確定のためのより精細な地図読みが要求されるわけである。

しかも14中の9コントロールがコースから南側の林の中にある・・・ということは、太陽方向に向くわけで、日陰になるコントロールが多いということだ。

各コントロールのフラッグ数も全て4~5個と多い。自信と不安とが錯綜する心理状態で、整理が付かないままに歩きだすことになる。



Eクラス第一タイムコントロール

う〜ム、判らないけ・・・

日本選手権大会とあってコースは概してよく考えられており、難度も高かった。

フラッグ群をタテ方向に見ての距離判断や、尾根上に一列に並んだフラッグなどの判定はとくに難しい。案の定、南向きにコントロールを見るため、風にゆれる木漏れ日が周辺の微地形の判断を非常に見にくくしている。正直言ってこれはつらかった。また、岩石が苔むしており、形状などの把握と確定に時間がかかる。

何度も行きつ戻りつを繰り返す。手がかりをつかもうと必死になる。トレイルOは、各コントロールでの競技者と設計者のガブリ組んだ大相撲である。ちなみに本日のE,Aコース設計は今井信親が担当。



考える、ただひたすら考える

意表をついたタイムントロール

タイムコントロール(Timed Control)

は興味深いものだった。

コース半ばに、隣接して2箇所セットされていた。まずひとつは東向きに見て類似特徴物のチョイスと、フラッグの方位判定が求められるもの。

これが終わったら、椅子を逆向きに座り、今度は反対方向の西向きにコントロールを見て、「沢」の微地形の等高線読みが要求される。

その上、正解が二つのタイムコントロールと同じ「B」であるとはニクイ。ふたつとも正解した者は44名中わずかに7名で、17%弱の正解率である。このタイムコントロールで、常連の上位陣のほとんどが総崩れとなったようだ。



Eクラス第二タイムコントロール

難しい緊張感の持続

さらに、このタイムコントロールを済ませた後に、次のコントロールまでの道路歩きが約2km続く。この区間で、今までの集中力を途切れさせてしまった選手もかなり居たのではないかとコース・プランナーがそれを意図したかどうかは判らないが。

見えない、動けないつらさ...

DPの周辺範囲が制限されて動けず、フラッグをただ一点からしか眺められないというコントロールもあった。しかも、見分けなければならぬ特徴物(部)はDPから約40mと遠く、おまけに林を背にした日陰にあり、周辺は背の高い草が茂っている。この条件はかなり厳しい。

ゴールを過ぎた場所では、主要大会で常に上位を占めていた選手達がたむろし、互いに情報を探り合っている。思うような成果が出せなかったようだ。本命が上位に上ってこない状況のままいよいよ成績の発表を迎えた。

1位・大久保、2位・田中淳一

さて、並み居る強豪を尻目に、日本チャンピオンの称号を手にし、見事WTOC2007出場権を手に入れたのは、16p

満点中13p105秒の成績を収めた大久保祐介(ES 関東 C)である。満点は取れなかったものの、満を持して挑んだその成果に拍手を送りたい。



田中 大久保 山口(尚)

オープン・クラス

大久保祐介 (ES 関東 C) 13p 105 秒
田中淳一 (神奈川県) 12p 52 秒
山口尚弘 (Qレーパー) 12p 79 秒
福田雅秀、田中 徹、鈴木 規弘

パラリンピック・クラス

木島英登 (大阪府)・三連覇
水野義幸 (長崎 TOLC)
蓮本勇喜 (長崎 TOLC)



三連覇を飾った木島英登



2位の水野義幸



3位の蓮本勇喜

香港選手が健闘、韓国も11位

実は大久保を上回る 14p29 秒の成績で実質のトップに立った影武者がいたのだ。その名は、香港からの遠来の客であるホ・チュンホ。

しかし残念ながら日本国籍者でないと日本チャンピオンにはなれない規則である。トレイル0の普及が始まったばかりの国から来て、よく健闘したものだ。(彼には表彰式の際、特別賞が贈られた) また韓国からの WTOC2005 参加の4人組も健闘した。



香港から参加の HO CHU HO さん

トレイル0アジア選手権の夢

かくして日本トレイル0選手権大会は終わった。いつの日にか アジア・トレイル0選手権大会(ATOC)を併催できる日の来ることを祈っている。

遠藤豪志君の感想

A クラス最年少参加の遠藤豪志君から、感想が寄せられた。

1 日目

僕はスプリント大会で、M20A に参加した。明らかに適正クラスよりレベルが高いが、長崎まではるばる行くのだから、という理由でエントリーした。結果は当然の結果となった。途中、池の真ん中にポストがあり躊躇した。

トレイルOはAコースに出た。12問中8問正解という結果に終わったが、競技を始めて1年も満たない僕にしては、上出来だったと思う。

宿では、見知らぬ方との二人部屋であったため、はじめは不安があったが、話し相手になって下さったので、その不安は和らいだ。夕食でちゃんぽんを初めて食べたが、思いのほか美味しかった。

2 日目(日本トレイルO選手権)

僕は、E 権を取るつもりで大会に臨んだ。スタート時間が迫るにつれ、だんだんと緊張した。緊張が解けないまま迎えた序盤、6 番までは全問正解、その後の上り坂の後にある所で間違えた。8 番に向かうまでの長い道で集中力が欠けたのか、その後立て続けに間違い、結果4問間違え。E 権取得は叶わず、失望した。しかし、10 位以内であったため、正直、嬉しかった。失望が瞬時に望みへと変わった。

この大会を運営された方々、そして僕にアドバイスをして下さいました。方々、本当に有難うございました。

遠藤豪志(麻布学園 OLK)

そのほか、電動車いすで参加した P クラスの海津良一さん(新潟・長岡市)、香港の Ho Chu Ho、韓国の Kwon Oh-Sam の皆さんから感想と謝辞が送られてきた。機会があれば紹介したい。

日本代表選手決定！

第3回日本トレイル選手権大会の結果を待って、以下の6名のメンバーがウクライナの首都キエフ(Kiev)で開催される第4回世界トレイルO選手権大会(WTOC2007)に日本代表としてチャレンジすることになった。(あいうえお順)

オープン・クラス出場
(障害の有無を問わないクラス)
大久保祐介 (ES 関東 C)
木村治雄 (入間市 OLC)
田中 徹 (京葉 OLC)



木村 大久保 田中

パラリンピック・クラス出場
(移動障害を有するクラス)
木島英登 (大阪府)
蓮本勇喜 (長崎 TOLC)
水野義幸 (長崎 TOLC)

以上の各選手は、ポイント・ランキング制度と、日本トレイル選手権大会の成績によって決定された。

いよいよ世界戦！木島が主導

P クラスは水野選手が WTOC に初チャレンジである。木島選手は初回 WTOC から4年連続、蓮本選手が昨年に引き続いての出場だ。木島選手は「Kiji きーじ」の愛称で各国のよく知るところ。毎年成績が上がってくるのが楽しみ。

蓮本選手は昨年のフィンランド経験をどのように活かせるかでその努力に期待大。水野選手は電動車椅子使用というハンデキャップに負けないファイトの持ち主。初めての世界選手権ということに萎縮しないようにリラックスして挑んでほしい。

P クラスには3名中の上位成績2名の合計得点で競う「チーム競技」という国対抗の団体競技がある。目指すは5位以内入賞か？ 実現できない成績ではない。

オープン・クラス<JAPAN>は各国にとっての脅威？

オープン・クラスはその全員が初参加。とくにライバルとして、わが日本を強く意識しているスウェーデンにと

っては、オール・ニュー・メンバーの「JAPAN」は脅威以外に他ならないと思われる。なぜなら、彼らには今年の日本代表選手に関する手持ちデータが全く無いからだ。英国や他の北欧勢にとっても同じ。今回は各国に心理的に揺さぶりをかけるチャンスだろう。

大久保、木村、田中の3選手は、いずれも WTOC の経験はないものの、日本国内ではそれぞれ実績を持つ Talented Competitor である。全日本優勝の自信の大久保、緻密さに論理的に強い木村、マッパーとしての知識に裏づけされたテクニカルな田中。いずれも充分に世界に通用するものを持っている。

雰囲気のにめれるな、飲み！

しかし、WTOC の雰囲気はやはり特有のものだ。心理的な戦いの場は極めてきびしく、プレッシャーも極めて大きい。フットOでは「走力」で、ある程度の自分の置かれた状況を推測することが可能だが、トレイルOではそれが出来ない。まわりに居る競技者が、何をどのように処理しようとしているかが全く掴めない。周りの連中が、みんな自分より優れて見える。

どのように高ぶる心をコントロールし、平常の自分と自身を維持し、集中し続けるかがひとつのカギになるかもしれない。

結果は8月24日午後

キエフでの WTOC2007 の予定

8月22日(水) DAY 1

P クラス選手権

8月24日(金) Day 2

オープン・クラス選手権

P クラスチーム競技

8月24日午後(日本時間夜更け)にはいよいよ結果が出ているはずだ。

今年の世界トレイルO選手権大会は、フットOの世界選手権と並行して開催される。トレイルOの一般併設競技もある。IOF クリニックも開催される予定だ。WOC 応援や、一般競技に参加される方は、ぜひトレイルOも覗いて欲しい。応援して欲しい。

(チーム・マネージャー こやま)